

三鷹市ソフトボール連盟

大会運営について

【実施ルール】

目的:新型コロナウイルス感染拡大を防ぐための楽しむルールを定める

1) 大沢総合グラウンドへの交通機関について

- ◇ 出来る限り、公共交通機関を利用せず、徒歩・自転車・バイク・自家用車等で来ること

2) グラウンド入場前について

- ◇ グラウンド内に入る前に受付をし、各チームは選手の健康管理表を提出すること
 - 連盟健康管理名簿表に(チーム・名前・年齢・住所・電話・体温)記載する
- ※体温は受付にて非接触型温度計で検温する

3) グラウンド入場後について

- ◇ 水道蛇口付近に固形石鹼を備え付けしているのを定期的に活用すること
- ◇ ベンチ内に設置されたアルコール消毒液で決められた回に手消毒すること
 - ベンチ入りした時・2回終了時・試合終了時・・・こまめな消毒を行う

4) ベンチ入場について

- ◇ 第1試合目のチームは使い捨てゴム手袋を使い次亜塩素酸でベンチ内をキッチンペーパーで拭き取り作業を実施する(拭き取り後、備え付けのごみ袋に捨てる)
- ◇ 都ステップ2は2M、ステップ3は1M以上離れるスタンスを取り、ベンチ内に入らなくとも良いが出来る限り、マスク着用すること



5) 最終試合のベンチ退場について

- ◇ 最終試合のチームは試合後、次の使用者のことを考えて消毒環境の整った状態で引き渡しを行うため、使い捨てゴム手袋を使い次亜塩素酸でベンチ内をキッチンペーパーで拭き取り作業を実施する(拭き取り後、備え付けのごみ袋に捨て受付に持っていく)

6) 選手整列について

- ◇ 従来通りの整列方法とし、選手間は片腕距離を保つこと
 - 整列時にはマスク着用する(目的:マスクを持っているか確認)
 - 双方礼では大声を出さない
 - 握手・ハイタッチなどはエアーで表現する

7) チーム選手間について

- ◇ 3密(密閉・密集・密接)条件下ではソフトボール競技の場合、密接が考えられる互いに手を伸ばした距離を確保しながらコミュニケーションを図ること



8) 面集合人数について

- ◇ 都ステップ2は50名以下、ステップ3は100名以下とする(距離は極力開ける)

9) アルコール消毒の実施について

- ◇ 設置したアルコール消毒液で2回の裏終了時、手消毒すること
 - 主審はアルコール消毒、マスクチェックを各チームOKサインにて確認する

10) ベンチ内の発声等について

- ◇ 2M以上離れていれば良いとするが極力大声は避ける

11) 守備・攻撃時のマスク着用について

- ◇ 基本着用とするが2M以上の距離間がある場合、ケースバイケースとする
 - 主審はフェイスシールドを付けた防具面にする(マスク着用での状態把握必要)

12) 面感染防止策の記録について

- ◇ 派遣審判チームは作成されたグラウンド図形に記入と項目チェックを担当とする
 - チーム名・選手数及び審判名を記入し、マスク着用・アルコール消毒などの
 - 項目欄に実施チェック記録を残す

13) 全日程終了後について

- ◇ グラウンド図形のチェックリスト表に不備がないか確認後、ファイル BOX に収納する

14) 各選手健康状態について

- ◇ 各チームは健康管理表に記載選手について 1W 後の体調報告を連盟にすること
 - 目的:各チーム・体協などにお知らせや名簿提出できるようにするため
 - 方法:連盟から一斉メールで問い掛けされたチーム代表者は
例) 全て○或いは、No10△で 37.6℃ No13×で 38.5℃などを返信報告する

【従来大会の流れは取れにくいものと推測】

競技ルールにローカルルールを組合せた楽しむソフトボール競技が出来ないか(案)を作成した。選手と連盟が同じ目的に立ち向かい、新型コロナウイルス感染拡大をさせない取り組みと「怪我」無く、「楽しく」2020 年を大勝利する「実施ルール」を試みる。

なお、試合の細かいルールを設けることでチーム負担は本末転倒となる恐れから注意が必要。従って、従来大会の流れを守りつつ、楽しむ感染拡大防止を新ルールとして取り入れ、人と人の距離間をいい流れにしなければならない。

【受付／各面の準備品等について】

- ◇ テント×1・テーブル×2・椅子×4……セットする
- ◇ 筆記用具×4 式(3 面+受付)
- ◇ グラウンド図形チェック表×3 面(試合数分)
- ◇ ファイルBOX×1 ケ
- ◇ マスク×50 枚入り
- ◇ アルコール消毒液 75% 用×7 ケ
- ◇ 非接触体温計(3 色判断測定)×1 ケ
- ◇ 固形石鹼×5 ケ
- ◇ 固形石鹼用メッシュ袋×5 ケ
- ◇ 主審用フェイスシールド
- ◇ キッチンペーパー×4 ケ
- ◇ 使い捨てゴム手袋×4 ケ
- ◇ 健康管理名簿表(連盟作成 Excel 表)×試合参加チーム数分
- ◇ 各面用に3密注意書など作成しベンチに張り出すもの×3 面+受付
- ◇ マスク等に関する熱中症予防策(塩飴・ポカリ水・濡れタオル・氷などセットにする)
- ◇ ジャグ×3 ケ
- ◇ 使い捨て紙コップを毎回×150 ケ程準備
- ◇ ゴミ袋(10L) 毎回×4 袋(3 面+受付)
- ◇ 得点表(組合せ表)×3 面分
- ◇ 参加賞(市民大会用)×人数分+α

<別な言い方>

「3密」の感染リスクに濃淡があることが伝わっていない。

単に換気の悪い「密閉空間」や、単に多数が集まる「密集場所」より、間近で会話や発声をする、「飛沫が多く飛ぶ大きな声の会話」のリスクが濃い。

<米国での研究実験>

密閉された場所で飛沫を飛ばしやすい言葉を大声で話した結果、会話を1分しただけで、ウイルスを含む飛沫が少なくとも1000個発生、それが微粒子（エアロゾル）となり空気中に10分近くも漂うと報告された。

<実現不可能で持続性に欠ける高すぎる目標設定>

「マスクや消毒だとか、とにかくやることが多くて、何が一番必要な対策なのかを知りたい」

「コロナ疲れ」や「コロナ慣れ」を呼びこんではいけない。

政府や専門家が優先的に下げるべきリスクの情報を正確、迅速、分かりやすいメッセージに加工し、社会、市民と共有し、協働することが鍵になる。相手に情報を「伝わる」ように伝える。

人は「説得」ではなく自らの「納得」により行動を変えるからだ。それにはリスクコミュニケーション強化が急務と考える。